

桃太郎から学ぶ  
30の成功マインド



神木 優  
Yuh Kamiki

挿画 もりいくすお

Obasan



Kiji



Inu



Saru



Oni



Momotaro

Momotaro

# きびだんご の法則

グッドブックス

## はじめに

こんにちは！ 桃太郎俳優® の神木 優です。

「桃太郎俳優って、こいつ何者だ!?」と思つていらっしやる方がほとんどでしようから、まずはその説明と、なぜ僕がこの本を書こうと思ったのかをお話したいと思います。

「桃太郎」は御伽噺としては最も有名なお話の一つですよね。

作つたのは室町時代の人たちと言われていますが、それから今に至るおよそ650年、埋もれることなく継承されてきました。

それは、この物語が時代を超えて分かりやすく、軽快な物語であるということに加えて、社会の本質や教訓・戒めなどがふんだんに込められているからだと思います。

人が人と関わり合う社会の中でどう生きていくかを「桃太郎」は教えてくれています。しかし、「ここに注目した人はあまりいませんでした。僕はここに目を付け、俳優としての仕事をする一方で、桃太郎を研究し始めました。

研究と言つても、学術的なものではなく、あくまでもエンターテイメントとして、当り前のように語られる桃太郎に「なぜ」を投げかけてみたのです。

「なぜ、桃太郎はきびだんご一つでお供を増やすことができたのか？」

「なぜ、桃太郎は子供ながらにして鬼退治に成功したのか？」

「なぜ、毎日川で洗濯をしていたおばあさんが金銀財宝を得ることができたのか？」

こういった疑問を大真面目に分析していくと、笑つて元気にしていくためのヒントが出てくる出てくる！

これを作品にして発表したらかなりウケまして、最近ではビジネスにも役に立つということで、企業研修にも呼ばれたりしています。

基盤となつているソロエンターテイメント「MOMOTARO」は主に舞台での表現ですが、2018年で6年目になります。

桃太郎を題材に、朗読、コント、一人芝居、落語、プレゼンテーション、講談、舞、即興等々と、日本文化を大きく取り入れて、今でも進化し続けています。こういう活動の中で、「桃太郎俳優」「桃太郎研究家」として商標を持つに至りました。

この「MOMOTARO」は、まつたく一人で立ち上げた企画だったので、最初は手探り状態が続き、お客さんが7人ということもありました。

どうして広めるか、その手段も方法も分かりませんでしたが、まずは目標を！と思いまして、実現する確証もなかつたのですが、とりえず大きく宣言しました。

「来年1年間で23区を制覇する！ 最後は東京タワーでやる！」

これが全ての始まりでした。

結果、たくさんの方の協力をいただきながら、1年間で東京都23区全区制覇、最後は東京タワー公演も実現できました。

その後は毎年300人規模のホールでの公演も実現できていますし、日本全国での公演や、世界公演だって実現しちゃいました。

この本は、その「MOMOTARO」公演だったり、自分の人生の中で僕が実際に実践し、体感してきたことも踏まえて書いています。

「お前の活動そのものが桃太郎だ」

宣伝し、行動し、協力してもらい、達成する、そしてまた次の宣伝をする。まさに桃太郎の旅立ちから鬼退治までの行程の繰り返しなと笑ってしまいました。

この本では「桃太郎」を切り口に、エンタメ的に成功マインドを語っています。

僕が考える「成功」とは、もちろん地位や名譽、お金も含みますが、現状よりも成長して幸せになることです。知的好奇心を満たす、明るい未来のために進むきっかけを得る、人間関係がよくなるなど、心から喜べるものを得ることも「成功」の一つかどうか?

この本の内容は、いわゆる自己啓発本で語られている内容と大きく変わるものではないのかかもしれません。しかし僕は、それをエンタメ本として届けてみたいと思いました。笑いながらも納得して、日常生活で実践して、幸せになつていただきたいです。笑うことは幸せの原点ですし、今までの「桃太郎」の常識を違つた角度から見ることで、新しい発見もあると思います。桃太郎俳優、桃太郎研究家だからこそ気づいた視点を楽しんでいただければと思います。

忠臣蔵イラストで有名なもりいくおさんにお願いし、ポップな感じに仕上げていただきました。イラストで笑っていたとき、内容に納得して、皆さまの今後の人生やビジネスライフで少しでもお役に立つことができれば幸いです。

## もくじ

### はじめに

### 桃太郎のおさらい

## 第一章 おばあさんから学ぶ成功マインド

1	わざわざ、やろう――	12
2	毎日、やろう――	16
3	好奇心を、持とう――	20
4	決断力を、養おう――	24
5	筋トレ、イメトレ、やろう――	28
6	大胆に、攻めよう――	32
7	とにかく、信じよう――	36

### コラム 桃太郎の話が各地で違うって、本当?



2

# 甲子、やさう



物語には、「ある日おばあさんが川で洗濯をしていると、川上から大きな桃がどんどんぶらこんぶら」と流れできました」とある。

しかし実際は、そんなに都合よく桃は流れてこない。万が一桃が流れてきたとしても、大きな桃に出会う可能性は極めて低い。

ではなぜ、おばあさんは運よく、大きな桃が流れてくるタイミングに出会えたのか。

それは、おばあさんが毎日川に行っていたからだ。毎日毎日、川に行つて洗濯をしていたからだ。めんどくさい基本を毎日続けていたから、奇跡のような出会いに巡り合ったのだ。

## 何度も「桃と出会わない日」があつたからこそ 「桃に出会った日」なのだ。

物語の「ある日」は、桃と出会わない日々を省略しての「とある、桃が流れて来たある日」の物語なのだ。

継続は力なり、とはよく言ったもので、日数や経験を積み重ねていくことで、知識も技術も磨かれていくし、予期せぬ発見もあるだろうし、想定外の出会いもあるはずだ。

一度挑戦してできなかつたこと=不可能ではなく、何度も挑戦して失敗して、積み重ねて積み重ねて、ある日、やっと可能になる。

そもそも失敗というのも、実際は失敗ではない。これではダメなのだと分かつた「成功事例」だ。

この小さな「成功」を重ねていくことで、ある日突然、世に言う成功が訪れる。結果だけに焦点を当てられることが多いが、その裏には何倍も何十倍もの「失敗」という名の成功が存在している。

何もなかつたところに、ある日突然大きな桃が現れる。しかしその裏には、桃と出会わなかつた日々の、継続という名の成功的の種が日々まかれていたのだ。

全国各地にバラエティ一豊かに伝わっている「桃太郎」は、パロディー作品もたくさん作られているんです。明治期の文豪たちもユニークな作品を残しています。

芥川龍之介は、勸善懲惡の桃太郎の物語に疑問を投げかけています。すばり「桃太郎」という作品ですが、この中に、鬼の大将が桃太郎にこう問い合わせるシーンがあります。

「わたしどもはあなた様に何か無礼でも致したため 御征伐を受けたことと存じております。しかし実はわたくしを始め、鬼が島の鬼はあなた様にどういう無礼を致したのやら、とんと会点が参りませぬ。ついてはその無礼の次第をお明かし下さる訳には参りますまいか?」

これに対する桃太郎の答えは……。

ゼひ原文で確かめてください。

尾崎紅葉は、鬼の復讐物語を描いています。

「鬼桃太郎」という作品で、鬼がドクロの付け焼を携え、狼、猪々、毒薙を仲間にして桃太郎が住む日本へ向かう、というちょっと怖いお話ですが、最後は滑稽に終わります。

また、児童文学者の藤谷小波は「桃次郎」という作品で、桃太郎の弟・桃次郎を登場させ、

彼が犬と猿と雞を連れて、再び鬼退治に行くという作品を残しています。

江戸時代にも桃太郎のパロディーが多く残されていますが、江戸後期の戯作者・十返舎一九は「初宝鬼嶋台」という作品でその後の桃太郎の世界を描いています。

「鬼退治をした翌年、桃太郎は再び宝物をせしめに鬼ヶ島に行くが、鬼ヶ島の様子が去年とは変わっていて、お洒落が流行っている。棒に肌の色を染めるだけでは物足りず、顎のギザギザをヤスリで削ったり、虎の皮ではなくちりめんのふんどしを縫めたり、金棒も小さく細くなり、ちゃんと腰に差すよくなっている。これまででは洒落た鬼ヶ島になってしまふと心配した桃太郎が、(元の鬼ヶ島に戻させて、以後、鬼ヶ島は末長く繁栄した)

というような、いかにも戯作者らしいお話です。

そのほか、「桃太郎元服姿」という現代にも通する怠惰い物語も残っています。

「生き残った赤鬼と青鬼が復讐のために、赤鬼の娘を桃太郎の家に召使いとして送り込み、桃太郎が寝ている娘に結婚させよう」という計画を立てた。娘は無事に潜入に成功したが、桃太郎の容姿と性格に惚れてしまい、娘の言いつけと桃太郎の優しさに板挟みになり、自ら命を絶ってしまう」という悲しい話です。

挙げればキリがありませんが、このほかにも桃太郎を題材にしたパロディーは無数に存在します。いかに桃太郎が人気だったのかを証明しているのではないかでしょうか。



背伸びを、  
しよう



お供たちはなぜ人間である

桃太郎に声をかけたのだろうか。

それは、新しい世界に

飛び出したかつたからだ。

人間の世界が動物の世界よりも優れていると仮定しよう。犬は大たちでは成し得ない成功の可能性を持つている人間・桃太郎に目を付け、声をかけた。だからすると、こんな未熟な私ではありますが、という思いもあつたかもしれないが、希望と期待を込めて声をかけたのだ。

その結果、鬼退治という大冒険のお供をすることになり、今までの世界では考えられない景色)を見ることになった。それは、彼らがワンランク上を見ていたからだ。

付き合っている人たちを見ると、その人のことが分かると言う。これは、類は友を呼ぶではないが、同じステージの人同士が付き合うという意味だ。

愚痴族に属すると愚痴魔になるし、傷のなめ合いサークルに入会すると、みんながみんなを慰め合って、いつまでたつても成長しない。時間の無駄だ。自分が尊敬する先輩、上司、ライバルなどのワンランク上の人たちと付き合うことで、考え方や行動を自然と見ることができ、自分自身も洗練され高まっていく。なによりも、意識が変わっていく。

意識を変えるには自分だけでなかなか難しい。あえて自分を厳しい状況に置くことによって、自然と変わっていくものである。その結果、意識も行動も未来への可能性への実現のためのものに変わっていく。



30

最後は、  
許そう



鬼たちは近くの村を襲撃し、乱暴狼藉、悪行三昧をはたらき、宝物を奪つて酒池肉林の生活を送つていた。

桃太郎たちに攻め込まれると、降参して宝物を差し出し、許しを乞うた。

許された鬼たちは改心し、その後、悪さをすることはなくなった。

日本各地に伝わる桃太郎の話には、近くの村から奪われた宝物を取り戻しに行く話もあれば、奪われたお姫様を取り返しに行くような話もあり、物語の展開も、桃太郎の目的もさまざまである。

しかし、鬼とのラストシーンでは、桃太郎が鬼たちに一度と悪さをしないことを約束させて最終的に許す、という話が多い。

もしここで許さずに首をはねてしまったり、徹底的に苦しめていたら、近い未来に鬼の息子や末裔が桃太郎の村を襲う、というような復讐の連鎖を生むことになる。

この負のスパイラルを根元から止めるためには、誰かが許し、平和協定を結ばなくてはならない。

これは、家庭の問題にも、恋人関係の問題にも、ビジネスの場にも当てはまる。相手のことが許せないという心理状態は、それだけで自分のストレスだし、実は許してあげられない自分にも腹が立っている。相手が自分の鏡だということを、心のどこかで知っているのだ。

誰だって、平和なほうがいいに決まっている。

許すには寛大な心が必要にはなるが、思い切って許すと負のエネルギーも排除でき、気分も体も楽になることは間違いない。

## 許すとは 自分を救うことにもつながる。

自分を救うためにも、全てを受け容れる度量が大切だ。

# おわりに

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

面白かった、ためになつたと思つていただけましたら、本当に幸せです。でも、手に取つてくださつた方に「こんなこと」と言うのもどうかと思うが、活字で見るよりも、目の前で生で見て聽くほうが10倍以上面白く、記憶に残ります。これからも全国行脚公演を開催していくたいと思っていきますので、ぜひ「MOMOTARO」を生で体感してみてください。

自分が幸せだと思っている人は心が笑っています。逆に言えは、「笑うことができれば幸せだと想える」ということです。エンタメは「幸せになるためのツール」です。さうに、「桃太郎」は元気の物語、元気の象徴です。

神木優は「日本文化と笑いと学び」という「きびだん」を携えて、みなさまの元に参ります。「MOMOTARO」で笑つて元気に。そして、日本を元気に。みなさま、逢える日まで、お元氣で！



岡山県志摩SAにて

神木優ソロエンターテイメント  
「MOMOTARO」ページ



## 神木 優（かみき・ゆう）

俳優、桃太郎俳優・桃太郎研究家<sup>®</sup>、やまなし大使。

1981年大阪生まれ。大阪府立茨木高校、大阪市立大学卒業。大学在学中にイギリスに留学。卒業後、俳優活動を始める。その後、オリジナルの自己表現として一人エンターテイメント「MOMOTARO」をスタートさせる。現在も日本文化や古典芸能の要素を取り入れながら進化し続け、日本国内はもちろんのこと、海外では全編英語による公演を開催し、評価を得ている。

神木優オフィシャルサイト

<http://yuhkamiki.com>

## もりいくすお

イラストレーター。

東京都出身。紙媒体、WEB、テレビメディアなどに絵を提供している。忠臣蔵マニア（赤穂事件ではなく、エンターテインメントのほう）であり、個人的な蒐集に留まらず、国民に広く知れ渡っていた忠臣蔵がすっかりマイナーになってしまったことに立ち上がり、播州赤穂の観光大使を務めたり各地の公演など、神木氏の桃太郎活動を見習って布教に勤しんでいる。

もりいくすおオフィシャルサイト

<https://kusuya.net>

桃太郎俳優 国 神木 優